

ハラキリ（神戸事件）（生田区）

神戸には、一から八まで数字であらわされている神社があります。つまり、一宮（いちのみや）神社からはじまって八宮（はちのみや）神社まであります。このような名前の神社は、全国にいくつもありますが、まとまって現在まで残っているのは珍（めず）らしいものです。これらは、生田神社に属（ぞく）する村社（そんしゃ）ということですが、七宮（ひちのみや）神社だけ県社（けんしゃ）となっています。神戸事件は、この中の三宮（さんのみや）神社の近くで起りました。

今から、百年あまりむかしのなはしです。それは、慶応（けいおう）四年（一八六八年）一月十一日（今の暦（こよみ）では二月四日）のできごとです。備前（びぜん）岡山藩（岡山藩）の武士たち三百人あまりが、山陽道（さんやうだう）を東へ向かって進み、三宮神社（さんみやじんじゃ）のあたりまで来た時のことです。冬の風は、冷たく吹いていました。まわりはほとんど田んぼで、麦（むぎ）がわずかに芽（め）を出しているだけで、土（つち）はだもこおっているようでした。左手（ひだりて）には山（やま）が連（つら）なり、右手（みぎて）には外国人（がいこくじん）の居留地（きゅうりゆうち）の工事（こうじ）が進められており、そのむこうは海岸（かいがん）で、冬（ふゆ）の海（うみ）は鉛色（なまりいろ）に光（ひかり）っていました。そして、海岸（かいがん）近くには、外国（がいこく）の軍艦（くんかん）が数隻（すうせき）いかりを降（お）ろしていました。

備前藩（びぜん）の武士（ぶし）たちにとって、外国船（がいこくふね）は珍（めず）らしく、まして外国人（がいこくじん）水兵（みずへい）の姿（すがた）が近くに見（み）えると、す（ず）っかり緊張（きんちやう）してしまいました。

それもそのはずです。今は、世（よ）の中（なか）がす（ず）っかり変わろうとしているのです。江戸幕府（えど幕府）（ばくふ）の十五代（じゅうごだい）将軍（しょうぐん）徳川慶喜（とくがわよしのぶ）は、すでに大政（たいせい）を朝廷（てうてい）に奉還（ほうかん）し、十五才半（ななか）の明治天皇（めいしてん）を中心（しん）にした新政府（しんせいふ）が生まれたところでした。しかし、一月三日（いちがつさんじつ）には旧幕府（きゅう幕府）がわと新政府（しんせいふ）がわとの間（ま）で、京都（きょうと）の近く（ちかく）の鳥羽（とりつ）・伏見（ふし）で戦（いくさ）が行（い）なわれ、旧幕府（きゅう幕府）がわは負（ま）けてしまったのです。このような時（とき）に、新政府（しんせいふ）がわの備前（びぜん）岡山藩（岡山藩）は、西宮（さいみや）をまもることを命（めい）令（れい）され、道（みち）を急（い）いでいたところでした。

家老（かろう）日置（ひき）帯刀（たてばち）のひきいるこの一行（いっぺい）は、十日（じゅうにち）の夜（よ）は明石（あかし）の宿（しゆく）に泊（と）まりました。十一日（じゅういちにち）は朝（あ）早く出（で）発（はつ）し須磨（すま）をとおって兵庫（ひょうご）の町（まち）にはいり、新（しん）在家（けいざい）にある網屋（あみや）新九郎（しんくわう）の屋敷（やしき）で昼食（ひるめし）にしたのでした。昼食（ひるめし）をすまし、休（やす）む間（ま）もなく出（で）発（はつ）しました。旧湊（きゅうみなと）川（がわ）をこえと神戸（かふ）です。神戸（かふ）開港（かいこう）のため、港（みなと）を中心（しん）にして東（あづま）と西（にし）に関門（かんもん）（かんもん）がもうけられました。その西関門（にしかんもん）は、いまの三越（みつこし）のあたり（あたり）にありました。西関門（にしかんもん）の番所（ばんしょ）（ばんしょ）の前（まえ）をとおりすぎ、三宮神社（さんみやじんじゃ）の前（まえ）にさしかかったのは、ちょうど午後二時（ごごにじ）ごろでした。先頭（せんとう）は、小さな野砲（やぱう）（やぱう）を三門（さんもん）ひいた第一砲兵（だいいちぱうへい）隊（たい）で、第二砲兵（だいにぱうへい）隊（たい）・第三砲兵（だいにぱうへい）隊（たい）とつづいているのです。冬（ふゆ）の日は短（みじ）い。日（ひ）の暮（く）れるま（ま）では西宮（さいみや）へ着（き）かねばと、急（い）ぎ足（あし）で歩（あ）いている武士（ぶし）たちの隊列（たいれつ）を、外国（がいこく）人（ひと）水兵（みずへい）たちが、もの珍（めず）らしく見物（けんぶつ）にきていたのでした。

と、二人（ふたり）のフランス（ふらんす）水兵（みずへい）が、第一砲兵（だいいちぱうへい）隊（たい）の前（まえ）を、山手（やまて）か浜（はま）がわへ横断（よこたん）しようとした。

このことは供先（ともさき）を横切（よこぎ）るといって、それ（それ）までの習（な）慣（かん）からい（い）えば、斬（き）り捨（す）てに（に）されてもよ（よ）い（い）くら（くら）い無（む）礼（れい）な行（い）ない（ない）のです。以前（いぜん）に、神奈川（かながわ）（かながわ）（今の横（よこ）浜（はま））の生麦（なまむぎ）村（むら）で同（おな）じよう（よう）なこ（こ）からイ（い）ギ（ぎ）リ（り）ス（す）人（ひと）が殺（ころ）され、大（おほ）問（もん）題（だい）にな（な）ったこ（こ）がある（あ）るの（の）です（す）、この水兵（みずへい）たちは、そのこ（こ）を知ら（し）らな（な）か（か）った（た）ので（ので）し（し）ょう（しょう）。

「よれっ、よれっ、よらぬかっ。」

先頭（せんとう）の武士（ぶし）は大声（おほこゑ）をあげ、手（て）で合図（あひず）を（を）しま（ま）したが、水兵（みずへい）たち（たち）には通（と）じ（じ）ません（せん）。後（ご）ろ（ろ）から通（と）訳（やく）（つうやく）が（が）あ（あ）わ（わ）て（て）て（て）け（け）つ（つ）て（て）水兵（みずへい）たち（たち）に説（せ）明（めい）す（す）ると、納（な）得（とく）（なとく）して横断（よこたん）は（は）や（や）め（め）ました（ました）。

ところが、ぎゃく（ぎゃく）の浜（はま）が（が）わ（わ）からア（あ）メ（め）リ（り）カ（か）兵（へい）が（が）横切（よこぎ）ろう（ろう）と（と）し（し）ました（ました）。

「よれっ、よれっ。」

手（て）で合図（あひず）を（を）し（し）大（おほ）声（こゑ）で（で）さ（さ）げ（げ）ば（ば）し（し）た（た）が（が）、ア（あ）メ（め）リ（り）カ（か）兵（へい）に（に）も（も）通（と）じ（じ）ま（ま）せん（せん）。ア（あ）メ（め）リ（り）カ（か）兵（へい）は（は）、そ（そ）の（の）声（こゑ）に（に）答（こた）え（え）る（る）よ（よ）う（う）に（に）何（なに）か（か）大（おほ）声（こゑ）で（で）ど（ど）なり（なり）な（な）が（が）ら（ら）、そ（そ）れ（れ）で（で）も（も）第（だい）二（に）砲（ぱう）兵（へい）隊（たい）と（と）第（だい）三（さん）砲（ぱう）兵（へい）隊（たい）との間（ま）のあ（あ）いた（いた）と（と）ころ（ころ）を（を）、む（む）り（り）や（や）り（り）に（に）走（は）り（り）ぬ（ぬ）けた（けた）ので（ので）した（した）。この第（だい）三（さん）砲（ぱう）兵（へい）隊（たい）の隊長（たいちやう）が（が）滝（た）善（ぜん）三（さん）郎（ろう）（たきぜんざぶろう）で（で）、隊（たい）の先頭（せんとう）を（を）進（しん）んで（んで）いた（いた）ので（ので）した（した）。

「待（まち）て。無（む）礼（れい）者（しや）！」

「な（な）に（に）を（を）する（する）か（か）っ（っ）！」

数（かず）人（ひと）の武士（ぶし）たち（たち）が（が）、と（と）っ（っ）さ（さ）に（に）追（お）い（い）か（か）け（け）て（て）い（い）き（き）ま（ま）した（した）。ち（ち）ょう（ょう）ど（ど）そ（そ）の（の）時（とき）、道（みち）ば（ば）た（た）に（に）いた（いた）一（ひと）人（ひと）のイ（い）ギ（ぎ）リ（り）ス（す）水（みず）兵（へい）は（は）、顔（かお）色（いろ）の（の）かわ（わ）つ（つ）て（て）い（い）る（る）武（ぶ）士（し）た（た）ち（ち）の（の）よ（よ）う（う）を（を）み（み）て（て）、思（おも）わ（わ）ず（ず）民（たみ）家（け）の（の）か（か）げ（げ）に（に）か（か）くれ（くれ）、腰（こし）の（の）ピ（ピ）ス（ス）ト（ト）ル（ル）を（を）ぬ（ぬ）いて（いて）か（か）ま（ま）えた（えた）ので（ので）す（す）。

「お（お）の（の）れ（れ）。」

ピ（ピ）ス（ス）ト（ト）ル（ル）を（を）み（み）て（て）、一（いっ）瞬（しゆん）ひ（ひ）る（る）ん（ん）だ（だ）武（ぶ）士（し）た（た）ち（ち）に（に）、

「斬（き）れ。斬（き）れ。斬（き）つ（つ）て（て）捨（す）て（て）い（い）！」

という命（めい）令（れい）が（が）だ（だ）さ（さ）れた（れた）ので（ので）す（す）。

「お（お）の（の）れ（れ）。無（む）礼（れい）者（しや）！」

「ご（ご）や（や）つ（つ）！」

それ（それ）ぞ（ぞ）に（に）声（こゑ）を（を）だ（だ）し（し）、刀（やいば）を（を）ぬ（ぬ）き（き）、槍（やり）の（の）さ（さ）や（や）を（を）は（は）ら（ら）つ（つ）つ（つ）こ（こ）ん（ん）で（で）い（い）き（き）ま（ま）した（した）。イ（い）ギ（ぎ）リ（り）ス（す）水（みず）兵（へい）は（は）、こ（こ）れ（れ）は（は）たい（たい）へ（へ）ん（ん）と（と）思（おも）った（た）ので（ので）し（し）ょう（しょう）。いき（いき）なり（なり）逃（に）げ（げ）だ（だ）し（し）た（た）。し（し）か（か）し（し）、突（つ）き（き）だ（だ）した（した）槍（やり）が（が）イ（い）ギ（ぎ）リ（り）ス（す）水（みず）兵（へい）の（の）腰（こし）の（の）あ（あ）た（た）り（り）に（に）さ（さ）さ（さ）り（り）ま（ま）した（した）。大（おほ）声（こゑ）を（を）あ（あ）げ（げ）た（た）イ（い）ギ（ぎ）リ（り）ス（す）水（みず）兵（へい）は（は）、と（と）っ（っ）さ（さ）に（に）民（たみ）家（け）の中（なか）に（に）か（か）くれ（くれ）、裏口（うらぐち）から（か）ら（ら）で（で）て（て）隊列（たいれつ）の（の）ず（ず）つ（つ）と（と）先（ま）を（を）ま（ま）わ（わ）つ（つ）て（て）、海（うみ）岸（ぎし）の（の）方（かた）へ（へ）走（は）つ（つ）て（て）逃（に）げ（げ）て（て）い（い）き（き）ま（ま）した（した）。先頭（せんとう）の第（だい）一（いち）砲（ぱう）兵（へい）隊（たい）の武（ぶ）士（し）た（た）ち（ち）も（も）、後（ご）ろ（ろ）で（で）何（なに）事（こと）か（か）が（が）起（お）っ（っ）て（て）い（い）る（る）の（の）に（に）気（き）が（が）

つ（つ）いて（いて）い（い）ま（ま）した（した）ので（ので）、ど（ど）う（う）す（す）れ（れ）ば（ば）よ（よ）い（い）か（か）が（が）わ（わ）か（か）ら（ら）ぬ（ぬ）ま（ま）ま（ま）に（に）、逃（に）げ（げ）て（て）い（い）く（く）そ（そ）の（の）背（せ）に（に）向（む）か（か）つ（つ）て（て）鉄（てつ）砲（ぱう）を（を）う（う）ち（ち）ま（ま）した（した）。

し（し）か（か）し（し）、無（む）礼（れい）者（しや）も（も）逃（に）げ（げ）た（た）ので（ので）、隊列（たいれつ）は（は）また（また）元（もと）の（の）お（お）り（り）に（に）と（と）の（の）え（え）ら（ら）れ（れ）、生（な）田（た）川（がわ）の（の）土（つち）手（て）に（に）向（む）か（か）つ（つ）て（て）進（しん）んで（んで）い（い）き（き）ま（ま）した（した）。

こ（こ）れ（れ）が（が）神（か）戸（こ）事（じ）件（けん）の（の）は（は）じ（じ）まり（り）な（な）ので（ので）す（す）が（が）、備（び）前（ぜん）藩（はん）に（に）と（と）つ（つ）て（て）大（おほ）事（じ）件（けん）にな（な）ると（と）思（おも）つ（つ）て（て）も（も）み（み）な（な）か（か）つ（つ）た（た）ので（ので）した（した）。

こ（こ）ちら（ら）は（は）、逃（に）げ（げ）て（て）帰（か）つ（つ）た（た）イ（い）ギ（ぎ）リ（り）ス（す）水（みず）兵（へい）で（で）す（す）。野（の）原（はら）の（の）よ（よ）う（う）な（な）居（い）留（りゅう）地（ち）を（を）こ（こ）ろ（ろ）が（が）る（る）よ（よ）う（う）に（に）走（は）り（り）、イ（い）ギ（ぎ）リ（り）ス（す）領（りやう）事（じ）務（む）所（しよ）（かりりょうじかん）へ（へ）か（か）け（け）こ（こ）み（み）ま（ま）した（した）。領（りやう）事（じ）務（む）所（しよ）とい（い）つ（つ）ても（も）、こ（こ）れ（れ）は（は）勝（か）海（かい）舟（ふね）（かつかいしゅう）が（が）つ（つ）く（く）つ（つ）た（た）旧（きゅう）海（かい）軍（ぐん）操（そう）練（れん）所（しよ）（そうれんじよ）（いまの神（か）戸（こ）商（しやう）工（こう）会（かい）議（ぎ）所（しよ）の（の）あ（あ）た（た）り（り）に（に）あ（あ）つ（つ）た（た））を（を）、イ（い）ギ（ぎ）リ（り）ス（す）公（こう）使（し）の（の）ハ（ハ）リ（リ）ー（ー）パ（パ）ー（ー）ク（ク）ス（ス）が（が）仮（かり）の（の）領（りやう）事（じ）務（む）所（しよ）と（と）した（した）ので（ので）した（した）。パ（パ）ー（ー）ク（ク）ス（ス）は（は）、す（す）ぐ（ぐ）に（に）沖（おき）に（に）泊（と）つ（つ）て（て）い（い）る（る）各（かく）国（こく）の（の）軍（ぐん）艦（かん）に（に）信（しん）号（ごう）を（を）送（くわ）せ（せ）た（た）ので（ので）、た（た）ち（ち）ま（ま）ち（ち）武（ぶ）装（さう）した（した）水（みず）兵（へい）た（た）ち（ち）

が（が）、カ（カ）ッ（ッ）ター（ター）に（に）乗（の）っ（つ）て（て）上（あ）陸（りく）し（し）て（て）き（き）ま（ま）した（した）。そ（そ）して（して）、進（しん）んで（んで）い（い）く（く）備（び）前（ぜん）藩（はん）の（の）武（ぶ）士（し）た（た）ち（ち）を（を）追（お）い（い）か（か）け（け）て（て）い（い）き（き）ま（ま）した（した）。

生（な）田（た）川（がわ）が（が）居（い）留（りゅう）地（ち）の（の）東（あづま）端（はた）に（に）な（な）つ（つ）て（て）い（い）ま（ま）した（した）。外（がい）国（こく）兵（へい）た（た）ち（ち）は（は）、川（がわ）の（の）土（つち）手（て）に（に）列（れつ）を（を）し（し）て（て）、備（び）前（ぜん）藩（はん）め（め）が（が）け（け）て（て）鉄（てつ）砲（ぱう）を（を）う（う）ち（ち）か（か）け（け）ま（ま）した（した）。無（む）礼（れい）者（しや）を（を）追（お）い（い）は（は）ら（ら）つ（つ）て（て）事（こと）は（は）す（す）ん（ん）だ（だ）と（と）考（こう）え（え）て（て）いた（いた）備（び）前（ぜん）藩（はん）に（に）と（と）つ（つ）て（て）、こ（こ）れ（れ）は（は）たい（たい）へ（へ）ん（ん）な（な）こ（こ）に（に）な（な）つ（つ）た（た）と（と）思（おも）つ（つ）た（た）ので（ので）し（し）ょう（しょう）。そ（そ）れ（れ）で（で）も（も）畑（はたけ）へ（へ）か（か）け（け）こ（こ）み（み）、土（つち）手（て）の（の）か（か）げ（げ）か（か）ら（ら）鉄（てつ）砲（ぱう）を（を）う（う）ち（ち）か（か）え（え）し（し）ま（ま）した（した）。し（し）か（か）し（し）、ど（ど）う（う）す（す）る（る）の（の）が（が）一（いっ）番（ばん）よ（よ）い（い）か（か）が（が）わ（わ）か（か）り（り）ま（ま）せん（せん）。と（と）に（に）か（か）く（く）、相（あ）手（て）は（は）う（う）る（る）さ（さ）い（い）外（がい）国（こく）兵（へい）な（な）ので（ので）す（す）。

「ひ（ひ）け（け）、ひ（ひ）け（け）！」

という声（こゑ）が（が）か（か）かり（かり）ま（ま）した（した）。こ（こ）んな（んな）こ（こ）に（に）か（か）わ（わ）り（り）あ（あ）つ（つ）て（て）い（い）る（る）は（は）たい（たい）へ（へ）ん（ん）と（と）い（い）う（う）気（き）持（もち）だ（だ）つ（つ）た（た）武（ぶ）士（し）た（た）ち（ち）は（は）、そ（そ）の（の）声（こゑ）を（を）聞（き）いて（いて）全（ぜん）員（いん）布（ふ）引（ひき）（ぬのびき）の（の）谷（や）へ（へ）逃（に）げ（げ）こ（こ）ん（ん）で（で）し（し）ま（ま）した（した）。ひ（ひ）いて（いて）いた（いた）三（さん）門（もん）の（の）野（や）砲（ぱう）は（は）、生（な）田（た）川（がわ）の（の）土（つち）手（て）に（に）お（お）いた（いた）ま（ま）ま（ま）に（に）な（な）つ（つ）て（て）し（し）ま（ま）した（した）。布（ふ）引（ひき）か（か）ら（ら）は（は）、少（せう）し（し）以（い）前（ぜん）に（に）作（さ）ら（ら）れた（れた）徳（とく）川（がわ）道（みち）を（を）か（か）くれ（くれ）な（な）が（が）ら（ら）走（は）り（り）ぬ（ぬ）け（け）、山（やま）あ（あ）い（い）を（を）通（と）つ（つ）て（て）打（うち）出（で）（うちで）に（に）た（た）ど（ど）り（り）つ（つ）いた（いた）時（とき）は（は）、み（み）ん（ん）な（な）へ（へ）と（と）へ（へ）と（と）に（に）な（な）つ（つ）て（て）い（い）ま（ま）した（した）。

外（がい）国（こく）兵（へい）た（た）ち（ち）は（は）、あ（あ）ま（あ）り（り）深（ふか）追（お）（ふかお）い（い）は（は）せ（せ）ず（ず）、神（か）戸（こ）の（の）海（うみ）岸（ぎし）に（に）あ（あ）る（る）居（い）留（りゅう）地（ち）を（を）守（まも）る（る）た（た）めに（に）そ（そ）の（の）ま（ま）わ（わ）り（り）を（を）占（せん）領（りやう）し（し）、東（あづま）西（にし）の（の）関（かん）門（もん）で（で）は（は）厳（げん）重（じゆう）（げんじゆう）な（な）警（けい）戒（かい）（けいがい）を（を）し（し）て（て）日（にっ）本（ぽん）人（じん）の（の）通（と）行（かう）を（を）禁（きん）止（し）し（し）、と（と）くに（に）東（あづま）関（かん）門（もん）に（に）は（は）、強（きやう）い（い）軍（ぐん）隊（たい）を（を）お（お）き（き）ま（ま）した（した）。それ（それ）は（は）、こ（こ）の（の）よ（よ）う（う）な（な）こ（こ）が（が）ま（ま）た（た）起（お）っ（つ）て（て）は（は）い（い）け（け）な（な）い（ない）と（と）思（おも）つ（つ）た（た）ので（ので）す（す）。い（い）や（や）、それ（それ）よ（よ）り（り）も（も）、も（も）つ（つ）と（と）大（おほ）事（じ）な（な）こ（こ）を（を）ね（ね）ら（ら）つ（つ）て（て）いた（いた）ので（ので）す（す）。明（めい）治（ち）の（の）新（しん）政（せい）府（ふ）の（の）力（りき）を（を）知（し）り（り）た（た）か（か）つ（つ）た（た）し（し）、新（しん）政（せい）府（ふ）と（と）い（い）ろ（ろ）い（い）ろ（ろ）な（な）交（かう）渉（しやう）も（も）した（した）か（か）つ（つ）た（た）ので（ので）す（す）。

ち（ち）ょう（ょう）ど（ど）こ（こ）の（の）日（ひ）、伊（い）藤（とう）俊（しゆん）介（けい）（博文（ひろぶみ））が（が）イ（い）ギ（ぎ）リ（り）ス（す）軍（ぐん）艦（かん）に（に）乗（の）せ（せ）て（て）ま（ま）ら（ら）つ（つ）て（て）、神（か）戸（こ）に（に）つ（つ）いた（いた）と（と）ころ（ころ）で（で）した（した）。伊（い）藤（とう）俊（しゆん）介（けい）は（は）、神（か）戸（こ）事（じ）件（けん）が（が）か（か）た（た）ず（ず）いた（いた）後（ご）、間（ま）も（も）な（な）く（く）兵（ひょう）庫（こ）県（けん）知（ち）事（じ）に（に）任（にん）命（めい）さ（さ）れる（れる）の（の）で（で）す（す）が（が）、こ（こ）の（の）時（とき）に（に）ま（ま）だ（だ）役（やく）に（に）は（は）つ（つ）いて（いて）い（い）ま（ま）せん（せん）で（で）した（した）。神（か）戸（こ）に（に）つ（つ）いた（いた）伊（い）藤（とう）俊（しゆん）介（けい）は（は）、こ（こ）の（の）事（じ）件（けん）の（の）あ（あ）と（と）か（か）た（た）づ（づ）け（け）を（を）す（す）る（る）よ（よ）う（う）、新（しん）政（せい）府（ふ）に（に）命（めい）令（れい）さ（さ）れ（れ）ま（ま）した（した）。時（とき）に（に）二（に）十（じゅう）八（はち）の（の）こ（こ）と（と）で（で）す（す）。

外（がい）国（こく）が（が）わ（わ）の（の）要（よう）求（きゅう）は（は）、以（い）後（ご）こ（こ）の（の）よ（よ）う（う）な（な）事（じ）件（けん）が（が）起（お）ら（ら）ない（ない）よ（よ）う（う）に（に）新（しん）政（せい）府（ふ）が（が）責（せき）任（にん）を（を）もち（もち）、外（がい）国（こく）人（じん）に（に）む（む）け（け）て（て）鉄（てつ）砲（ぱう）を（を）う（う）つ（つ）た（た）備（び）前（ぜん）藩（はん）の（の）指（し）揮（き）官（くわん）（しきかん）を（を）死（し）罪（ざい）（しざい）に（に）せ（せ）よ（よ）、と（と）い（い）う（う）も（も）の（の）で（で）した（した）。備（び）前（ぜん）藩（はん）と（と）して（して）の（の）行（い）な（な）い（ない）は（は）、武（ぶ）士（し）と（と）して（して）無（む）理（り）か（か）ら（ら）ぬ（ぬ）こ（こ）と（と）である（である）の（の）は（は）、よ（よ）く（く）わ（わ）か（か）つ（つ）て（て）い（い）る（る）新（しん）政（せい）府（ふ）な（な）ので（ので）す（す）が（が）、こ（こ）の（の）交（かう）渉（しやう）の（の）結（けつ）果（くわ）は（は）、新（しん）政（せい）府（ふ）の（の）力（りき）が（が）あ（あ）る（る）か（か）な（な）い（ない）か（か）を（を）し（し）め（め）す（す）も（も）の（の）な（な）ので（ので）す（す）。で（で）す（す）か（か）ら（ら）新（しん）政（せい）府（ふ）と（と）して（して）、外（がい）国（こく）が（が）わ（わ）の（の）要（よう）求（きゅう）を（を）う（う）け（け）い（い）れ（れ）て（て）、新（しん）政（せい）府（ふ）の（の）命（めい）令（れい）で（で）日（にっ）本（ぽん）が（が）動（うご）く（く）こ（こ）と（と）、つ（つ）ま（ま）り（り）、新（しん）政（せい）府（ふ）に（に）力（りき）の（の）あ（あ）る（る）こ（こ）を（を）し（し）め（め）さ（さ）う（う）と（と）思（おも）い（い）ま（ま）した（した）。

そうなる、誰かが責任者ということで、犠牲〈ぎせい〉にならなければなりません。備前藩は困ってしまいました。結局、第三砲兵隊の隊長であった滝善三郎正信〈たきぜんざぶろうまさのぶ〉が割腹〈かつぷく〉することになりました。それは、二月九日の夜、兵庫・南仲町の永福寺〈えいふくじ〉で、ときまりました。永福寺は戦災で昭和二十年に焼けてしまい、その後は復興していません。それで、地元の人びとの力もあって、少しはなれたところにある能福寺〈のうふくじ〉にその碑〈ひ〉をうつし、今もおまつりをしています。

きのう見し夢は今さらひきかえて
神戸が浦に名をやあげなむ

これは、滝善三郎の最期にのこしたうたです。永福寺の本堂で、外国人七人、日本がわの立ち合い人七人が見守る中で、夜の十一時すぎ武士の作法〈さほう〉にのっとなってみごとな切腹〈せつぷく〉をとげたのでした。こうして、滝善三郎の生涯〈しょうがい〉はおわりました。時に三十二才でした。

外国人にとって、切腹を見たのははじめてです。ろうそくのうす暗いあかりの下での切腹は、すさまじいものだったのでしょう。

「おお、ハラキリ。」

と、さけんで、気を失いかけた人もあったということです。